

ちんじゅの木木通信

2023
春号

Theme:
この土地、かの土地



都市の小さな村

森村 衣美

令和5度は、ちんじゅの森サロンほぐほぐの活動の5年目に当たります。ここ数年、ほぐほぐという拠点での活動をメインに、「自然と人」「過去と未来」「地方と都市」「異なる世代」をつなぐ活動を行ないたいと、さまざまな試みを行ってきました。

ちんじゅの森サロンほぐほぐが都市における小さな村であったとすると、この村には一年を通してさまざまな形でかわってくれる人たちがいます。米作りや旬の野菜作りをしてくれる人、季節の花を彩りよく植えてくれる人、通りすがりに咲く花を見て声をかけてくれる人、立ち寄ってくださる方のために庭をきれいに掃き清めてくださる人、室内においても季節を愉しめるよう部屋のしつらえを調べてくれる人。

中秋の名月が近づけば「お月見をしましょう」と提案してくれる人がいて、お月見団子を作ってくれたり、すすきを飾ってくれる人がいるので、せっかくならば「伝統的」なお月見を記録した他地域のお月見行事の映像を見ましょと、昨年はお月見の会を催しました。

ほぐほぐという村には、ときどき他地域から訪れてくれる方があり、地元の産物を届けてくれるとともに、その土地の暮らしについて話を聞かせてくれます。愛媛の内子町からは大きくて濃厚な味の栗のお土産と、栗を育てる生業、里山の暮らしの風を。鳥取の八頭町からは毎年、柿を届けてもらい、美味しく育った柿の、その年の気候や出来について教えてもらいます。数年前に白と杵をくださった新潟最北の高根集落からは餅つきのやり方だけでなく、ヨモギを乾燥させる方法や乾燥ヨモギから草餅を作る方法を伝授してもらい、多世代交流にぴったりの餅つきを楽しみました。

日常的にほぐほぐに足を運べる都市の定住者も、時々この場を離れて旅に出ます。南は宮崎県高千穂の夜神楽の話聞かせてくれる民宿のご主人と神楽を舞う奉仕者(ほしやどん)に出会い、昨秋、素敵なコーディネーターの案内で高千穂ツ

アーが実現しました。たたなずく山と遠景を埋めるように広がる雲の海、その海から昇る朝日という自然現象の芸術に心動かされる時間を過ごす、自分の日常生活のむこうにある世界の広さを認識します。また、ほぐほぐに時々来ていた若者たちは世界を放して見識を広め、広い世界の土産話を持ち帰り、触れてきた新たな世界について語ってくれます。



▲ 国見ヶ丘 (高千穂町)

かつては生きるため、命を長らえるために地域コミュニティの維持が必要不可欠で、そのために村の祭りやさまざまな行事が機能してきたかもしれません。これからの時代にもその機能が必要不可欠であることを確かめるべく、さまざまな土地の人、それぞれに豊かな経験や技術、学術のある人が話題を持ち込んでくれる、人がゆきかう「つなぎめ」の場所となることを願い、季節の行事を通して、ほぐほぐの場に生まれるゆるやかな人間関係を大切にしていきたいと思います。

「自然と人」「過去と未来」「地方と都市」「異なる世代」をつなぐ活動とは、今の時代をともに生きている「人」とつながることからしか始まりません。幸せには「人」とのつながりが欠かせないという確信のもと、大きなシステムではないNPOちんじゅの森の活動を通して、都市におけるささやかなコミュニティのあり方もさぐっていききたいと思います。

NPOちんじゅの森の活動を応援して下さるみなさまには心より感謝をいたしますとともに、どうぞ今後ともご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



時間をつなぐ 暮らしをつくる



2022年10月30日

干し柿作り共同作業

● 協力：日本女子大学食育ボランティアグループ

日ごとに秋が深まる時期の、ほぐほぐの秋の風物詩、干し柿。今年も鳥取県八頭町の岡崎ファームから西条柿を共同購入し、作りたい人で集まって作業しました。

柿好きだった正岡子規～「渋抜き」とはなんぞや～他の果物との比較で群を抜く柿の栄養価についての日本女子大食物学科の学生さんによる柿の小話も楽しく、サプライズZoomで岡崎ファームライブ案内もありの充実時間となりました。

ぶりぶり干したての西条柿を眺める時間を楽しんで、今年もおいしい干し柿ができました。



2022年11月13日

お米の一年：脱穀・粳すり

● 協力：辻川牧子さん

4月に「代かき」、5月に「お田植え祭と田植え」をして、7月には穂に白い花がつけました。8月にかかしを立ててスズメよけのネットをして、9月にはたわわに実った稲の「抜穂祭と稲刈り」を終え、「脱穀と粳摺り」を行ないました。

ちんじゅの森サロンほぐほぐには、新潟の高根集落からいただいた「千歯こき」があります。歯（刃）は19本ですが千歯あると感じられるくらい力を発揮して稲穂から粳を扱（こ）くことができます。ぱらぱらと粳がこそげ落ちる音が軽妙で心地よいです。

粳すり専門の道具は持ち合わせていないため、粳をすり鉢に投入し軟球ボールでゴロゴロとしてフウッと粳殻を吹き飛ばす方式での粳すりです。

せっかくなので脱穀して粳すりした玄米を混ぜてご飯を炊きました。お米の炊けるいい香りの中、辻川牧子さんの稲わらごはん、食品ロスのお話に大人だけでなく子供たちが静かに耳を傾けている時間があつたのが印象的でした。

この一年もたくさんの美味しい実りをみんなで分け合っていたくことができますように。



2022年11月27日

- 風土まるごと旬を味わう手しごと講座 - 栗と里山の暮らし～愛媛 内子町 石畳地区～

● 協力：亀岡家 / 日本女子大学食育ボランティアグループ / 田口祐子さん

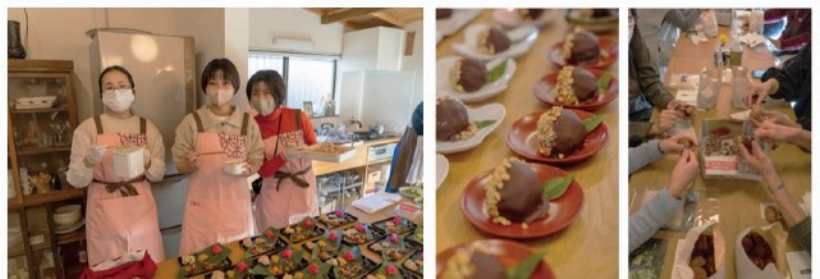
● 共催：日本女子大学公衆栄養学研究室

栗で暮らしを立てている亀岡家さんの栗栽培、栗プロダクト、里山で生業を生み出すこと、さらには棍棒（こんぼう）飛ばしの魅力まで、色とりどりのお話と、特製プレートには豊かな愛媛 内子町 石畳の実りが溢れました。

栗の栄養価について、その魅力は「脂質がないのに炭水化物が豊富」であることを示してくれた学生さん。何度も試作を重ねて仕上げてくれた栗スイーツ「マーロンドチョコレート」。

田口祐子さんの栗小話では、東京もかつて（大正～昭和はじめ）栗の大産地だったことや、縄文人もオットセイや魚のほか栗を食していた事実が人体のコラーゲンタンパク質の調査から明らかになってきたことなど、美味しさの奥にある栗の文化を学びました。

亀岡家さんご夫妻の魅力が、栗に、お料理に、召し上がる人に、そして地域に伝わっていきます。内子町石畳地区の里山を失わないために、まず亀岡家さんにつながることから始めましょう。



2022年12月18日

しめ縄作り

● 共催：一般社団法人 地湧の杜

今年度も千葉県長南町に拠点を持つ社団法人地湧の杜さんとの共催で、しめ縄作りを行いました。脱穀したあとの素朴な風合いの稲わらに、陽の光がそそぎます。その香りや、手ざわりも魅力的、わが手と足で縄を縛う時間が楽しいしめ縄作りです。

一度覚えてしまえば、不思議と一年たっても手が思い出すから大丈夫。コツをつかむとどなたも上手になって、手の平からするすると味わいある縄になってのびていきます。稲わらながらクリスマスリースも兼ねられそうな色合いで、基本の牛蒡締めをマスターして思い思いに飾りをほどこしました。

ほぐほぐの神棚用には、若者がこしらえてくれた野性味のある力強い太目の牛蒡締め。

年の瀬のしめ縄作りではいつも一年を振り返ります。めぐる季節、自然とのつながりの中に日々の暮らしがあることを、時々再確認できる時間や場所でありたいと、思いを新たにします。



2023年1月14日

「小正月ってどんな日？」新年茶話会

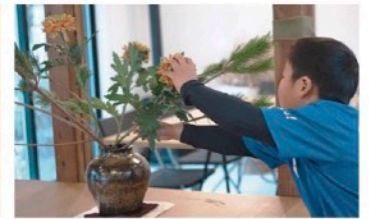
● ゲスト：濱千代早由美さん
● 協力：サゴイシオリさん

小正月は「こしょうがつ」と読み、1月15日頃のことをいいます。夫婦岩で有名な伊勢市二見出身で伊勢信仰の研究者でもある濱千代早由美さんが小正月をテーマにお話くださいました。農、暦、祭り、年中行事、ご先祖様、神様、神人共食、直会、社会情勢、改暦、大小暦、祝日、初詣、交通網…こうしたワードが、人々の日常生活の経験によって今日までつながってきました。

小正月には「小豆粥」を食べることを知り、いつものお願いでサゴイシオリさんに作っていただきました。ふっくら美味しい上品な小豆粥。お話の中で、その年の作物の生りを小豆粥で占う粥占

(かゆうら)が行われてきたことをお聴きし、来年の小正月は小豆粥でぜひ粥占をしてみたいと思います。公式のお正月は新暦の1月1日に譲り、プライベートなお正月の意味合いをもってきた小正月。これからも時々、暮らしの経験を持ち寄り共有するような、ゆるやかな集いの場を作っていきたいです。

茶話会に先立ち、小正月を華やかにしてくれた小さな巨匠(野球少年8才)。近くから遠くから花器を見つめて思案しつつ、お正月のおめでたい松と菊をダイナミックに活けてくれました。



2023年2月25日

餅つき交流会

● ゲスト：鈴木信之さん ● 協力：高田老松町会

餅つきは世代を超えた交流会にぴったり！寒さの残る冬の終わり、高田老松町会の大鍋やセイロをお借りして、白と杵をくださった高根集落からのゲスト、鈴木信之さんの助力もあり、餅つき交流会を行いました。せいろから立ち上る湯気、もち米を蒸している時の香りを楽しみながら、返し手を入れつつ、交代で餅を搗き、あんこ、きな粉、ココア、納豆、大根の辛み、しょうゆ、海苔、最後は乾燥ヨモギを戻してもち米と一緒に蒸したヨモギ入りの草餅もいただきました。



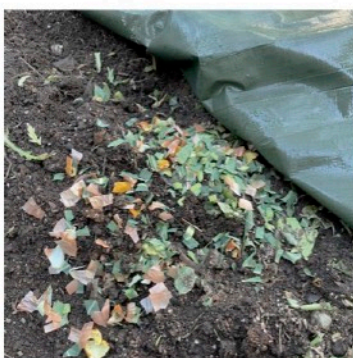
2022年10月2日 花の植え替えと花壇作り

2022年12月3日 季節の寄せ植え

2022年12月29日 再生土作り

園芸班活動

月に1回から2回、有志のメンバーで、季節の花の手入れをしています。樽を使っての試みから始まり、試行錯誤を経て、現在は地面に直置きでの再生土作りに取り組んでいます。除去した花や葉や茎、草、野菜



や柑橘系のくだもの皮など、なるべく細かく刻んで土に混ぜ込みます。コーヒーや茶がらも再生土作りの優等生です。糠も混ぜ込み、しばらくすると菌糸が活躍し出して、土は発酵してふかふかに甦ります。野菜や果物の皮も土に甦ると思うと、料理をする楽しみまで広がります。「繰り返し無駄なく利用できる」ことは人間にとって本能的な喜びであるようにも感じます。

園芸班活動をご一緒して下さる方も随時募集中です(ちんじゅの森会員にご登録をお願いします)！

2022
11/19~21高千穂ツアーの
ご報告

令和4年7月に「彫り物(えりもの)作り体験を通して知る夜神楽の世界」を開催しました。宮崎県・高千穂町の民宿「神楽の館」とオンラインでつなぎ、「彫り物」作りを行うとともに、神楽の舞い手である「奉仕者(ほしやどん)」のお話を伺ったワークショップでした。

彫り物とは、夜神楽の舞台である神庭(こうにわ)の四辺を飾る切り絵のようなもの。五穀豊穡を祈願し、木・火・土・金・水の文字や鹿や兔などの動物をかたどった図柄で神楽を舞う舞台に飾られます。日本の神話「古事記」では、神々が最初に地上に降り立った比定地ともされる宮崎県・高千穂町。古くからこの地に伝わる「夜神楽」は収穫への感謝と豊作を祈願するために夜を徹して舞われる神楽で、現在は国の重要無形民俗文化財にも登録されています。

さて、11月は2月まで続く夜神楽のはじまりの時期にあたり、また雲海を見るチャンスにも恵まれるよい季節だそうです。夏にZoomの向こう側にいらした今村さん、工藤さんにお会いすること、また、制作した「彫り物」と生の夜神楽に現地でお会いすることを目的に、神様めぐりを兼ねて、高千穂の旅へと出かけました。宿泊先はもちろん今村さんの「神楽の館」。その名の通りプライベート神楽を拝見できるのが特徴で、おいしい郷土料理に心も温まる民宿です。



高千穂を舞台とする日本神話で有名なのは「天岩戸神話」。太陽の神様とされるアマテラスが治める高天原に弟のスサノオがやってきて乱暴狼藉を働いたため、アマテラスは岩戸に隠れてしまい世の中が暗闇につつまれてしまいます。そこで八百万の神々はアマテラスに出て来てもらおうと策を練り、成功し、世界は再び光を取り戻します。高千穂の夜神楽は、こうした神話や伝説を目の前に見せてくれます。もちろん神楽とは神様への奉納ですが、見ている私たちを楽しませてくれる舞台でもあります。太鼓や笛の音色の中で、手力雄(たちからお)が岩戸

を探し当て、鈿女(うずめ)が舞い、戸取(ととり)の舞で岩戸の戸を取り除くと再び世界が明るくなり、その喜びを思兼命(おもいかね)が舞開き(まいびらき)で表現します。33の演目があり、そのうちの4つの舞を拝見しました。



▲ 手力雄(たちからお)



▲ 鈿女(うずめ)



▲ 戸取(ととり)の舞



▲ 思兼命(おもいかね)

ひと言で表せば、夜神楽は、「とてもかっこいい」です。神楽面を身につけた奉仕者(ほしやどん)には、大変な迫力があります。古くより男性のみが舞うことができます。地元の子は就学前の幼い頃より神楽に親しみ、保育園幼稚園時代にはみんなで演じる機会があるそうです。小学校に上がるとクラブ活動があり、その後も神楽を好きでいる子が保存会の活動を続けていくのだそうです。日常は福岡といった都会で仕事をしていても、神楽の時期には地元に戻ります。

国の「重要無形民俗文化財」である高千穂神楽は、保存されるべき伝統として制度により保護されている文化であるとも言えます。しかし、夜神楽の舞台を拝見すると、その文化は日常の暮らしの中に生きていることもわかります。それは奉仕者(ほしやどん)との会話の中で当然のように語られる「おもてさま」という表現に表れています。「おもてさま」とは、神楽で身につける「神楽面」のこと。「神楽が好き」の前提に幼い頃から親しむ土壌があり、そこには神楽面への敬意が「おもてさま」となって日常に溶け込んでいます。神楽の舞台では、「おもてさま」の向こう側から「鑑賞者の様子も見ながら舞っている」と話してくれたのも印象的でした。

より多くの方が「大事にしたい、残したい」と思うことが文化として継続するのであれば、そこにどのように参加し続けられるか、離れた地からのかわり方を考えさせられます。

天岩戸温泉村 神楽の館
kagurano-yakata.com



今回の旅のコーディネーター
「JUJUトラベル」



ほぐ ほぐ

HOGU HOGU

サブテーマ

発酵食品

令和5年度の予定

春

田んぼ 4月：代かき

畑 3～4月：春の耕うん

畑 4月：夏野菜育苗

畑 5月：夏野菜定植

年中行事 5月5日(祝)
- 端午の節句 - 柏餅づくり

エクスカージョン 神社探訪

田んぼ 自然の力で成長中

季節の手仕事 6月：梅仕事

畑 7月～9月：夏野菜収穫

季節の手仕事 8月：夏野菜で漬物作り

エクスカージョン 酒造めぐり

年中行事 9月：お月見

田んぼ 9月：稲刈り

畑 9月～10月：秋の耕うん

夏

園芸班活動

- ・ 季節の寄せ植え
- ・ 庭の花壇作り
- ・ 土作り

田んぼ 3月：田おこし

年中行事 2月：餅つき

年中行事 2月：節分

季節の手仕事 1月～2月：味噌づくり

年中行事 1月：小正月

年中行事 12月：正月準備

畑 12月以降順次：秋冬野菜収穫

風土まるごと 旬を味わう手しごと講座
11月：栗のワークショップ

季節の手仕事 11月：山焼きの赤かぶ漬け作り

季節の手仕事 10月：干し柿づくり

畑 10月：秋冬野菜定植

冬



※新型コロナウイルス感染症の状況により開催を見合わせる可能性もございます。

日程と詳細はメールにてご案内しています。
案内をご希望の方は右記QRコードからご登録ください。



<https://ws.formzu.net/fgen/S3967412/>



\フォロー&チェックもお願いします！/



ちんじゅの森



webURL : chinju-no-mori.or.jp

【お問合せ】ちんじゅの森事務局

TEL ▶ 03-6877-0425

Mail ▶ hoguhogu@chinju-no-mori.or.jp

フィンランド 便利

昨年の9月からフィンランドに留学しています。サウナ、ムーミン、世界一幸せな国など、最近日本でフィンランドに注目が集まっていることもあり、「フィンランドってどんな国なんだろう?」と興味津々で渡航しました。今回の通信では、私がフィンランドで生活する中で見つけたフィンランドらしさとフィンランド人の幸せの秘訣についてお伝えします。

フィンランドをフィンランドたらしめるもの

北欧としてくられることが多いフィンランド、スウェーデン、デンマーク、ノルウェー。高水準の福祉が整い、幸福度ランキングでも世界トップにランクインする国々ですが、他の北欧諸国と比べてフィンランドを特徴づけているのが“野性”の感覚だと感じています。例えばサウナ。日本でもサウナと水風呂に交互に入ることがありますが、フィンランドでサウナに入ったあとはそのまま外に飛び出して積もった雪にダイブしたり、サウナからかかる栈橋を歩いて凍った海に飛び込むことも! 90度近くまで上がることもあるサウナと氷点下の屋外を行き来すると、普段は全く意識することのない身体の各部の存在が自ずとはっきり感じられます。日本には温泉文化があるので私も公共の場で裸になることに抵抗はなかったのですが、フィンランド人はそんな私ですらびっくりするほどオープンで、水着を着てサウナに入るとむしろ冷たい目で見られることもあるほど。



▲地元の人のボランティアと寄付で成り立つ、ディーブでローカルな Sompas Sauna。

裸になることは相手に対して心を開いている証で、サウナで幼いときから多くの人の体を目にしていることが、フィンランド人が他者に対して寛容になれる理由の一つでもあるのだそうです。

他には、フィンランドには世界的にも有名なデザインのブランドが多くありますが、その多くが自然からインスピレーションを得て作られています。普段何気なく外を歩いているとき、凍った海の中に気泡が閉じ込められていたり雪解けの日に木からしずくが滴り落ちたりしている美しい瞬間を見つけると、思わずその一瞬の光景を永遠のものにとどめたくなる衝動に駆られ、フィンランド人の自然を愛でる感性がよく分かる気がします。

ところで、フィンランドに来るまでは、日常の中に自然があるような生活はいかにも「北欧」らしいというイメージだったのですが、北欧諸国の中でも特にフィンランドで強く現れている文化なのではないかと感じています。スウェーデンとデンマークに旅行に行ったときに気付いたのですが、フィンランドは他の北欧諸国と比べて異なる特徴をいくつも持っています。例えば地理的に見ると、フィンランドは他の北欧諸国に比べてかなり東側に位置していて、そのために他のヨーロッパ諸国から入ってくる文化の影響を受けにくかったのかもしれませんが、それから歴史的には、フィンランドだけが王国としての歴史をもっていません。北欧各国首都の市役所や図書館を比べてみると、ストックホルムやコペンハーゲンが豪華絢爛な雰囲気



◀冬になると屋根にぶら下がるつらら。これをガラスで表現したくなる気持ち、とってもよく分かる!

▶ iittalaと呼ばれるフィンランドのガラスメーカーの花瓶は思わず水や氷を思わせるデザインなのが特徴的。



気が印象的なものに対して（例えばあの華やかなノーベル賞の授賞式はストックホルム市役所で行われています）、ヘルシンキは拍子抜けするほどシンプル。質素というよりスタイリッシュ、という方が近いと思うのですが、使いやすさや機能が最優先で、「不要な飾りはつけないぞ」という意識さえときに感じます。王国文化が存在しなかったために権力を見せつけるための派手な文化は生まれず、その代わりに堅実に自然と暮らす文化が脈々と受け継がれてきたのかもしれません。

「幸せの国」はどこから？

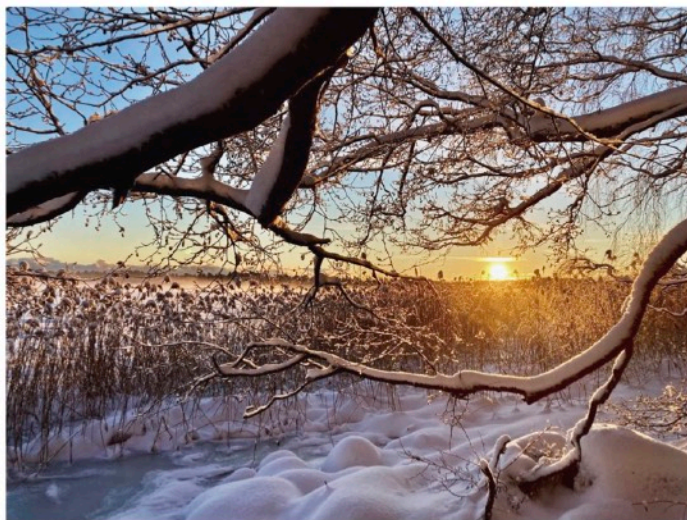
フィンランドで生活して感じている「フィンランドが世界一幸せの国たる所以」が2つあります。先に少しだけおことわりしておくのですが、フィンランドを世界一幸せな国としているレポートは経済・社会制度・政治などに関する調査をもとに算出されているもので、ここで書くフィンランドの幸せの秘訣はあくまでも私の感想です。

1つ目は、とってもありきたりですが「自然が身近にあること」。私の生活している寮はヘルシンキ市内から地下鉄で15分ほどのエスポー市という場所にあるのですが、寮やキャンパスの周りには舗装されていない小道が通っている林が広がっていて、通学や散歩でそこを歩く度に新しい植物、動物、景色に出会います。特に冬は雪が積もって辺り一面真っ白な日、それが解けて木や葉がしずくでキラキラと光っている日、そして解けた雪が再び凍ってそこに太陽が反射している日…美しい光景を前に、文字通り感嘆のため息を漏らしてしまいます。二度と出会えないであろう偶然の景色をそのとき見ることができた喜びが、毎日を新鮮でワクワクしたものにしてくれます。

そして2つ目は「お互いに個人の自由を尊重している」こと。それぞれが異なる行動を取ったり好みを持ったりすることが当然のこととして受け入れられていると感じます。今振り返ってみると日本にいたときは、グループで行動するとき妙な同調圧力を感じたり、趣味でもファッションでも食べ物でも基本的に流行りがあって、無意識のう



▲ 9月。寮の裏にある林道からの眺め。誰かのボートが浮かんでいるのが、短い夏を思い切り満喫するフィンランドらしさを感じさせます。



▲ 12月。雪と朝焼けが織りなす絶景！身近にこの景色があること幸せを日々感じています。

ちに自分の嗜好も周りに合わせて決まっていることが多かったような気がします。対してフィンランドではお互いに過干渉することがないので、他人の目を気にして自分のやりたいことや好みを犠牲にしていることがむしろバカバカしく感じられます。フィンランドでは自由な働き方が認められている、というのは日本で聞いたことがありましたが、今思うところには「自由を認めてあげている」という意識はあまりなく、むしろ「人それぞれ違うのが当然でしょ？」というマインドセットがあるように感じます。周りに合わせるプレッシャーがなく、一人ひとりがそのときやりたいことを気が向くままにやっけて生活しているからこそ、自分の生きる毎日に納得感と満足感を持って生きられるのかもしれません。

こちらで過ごせる時間は残り3ヶ月を切りましたが、長い冬が明けてようやく訪れる春、そして冬とは違う楽しみがたくさんある夏のフィンランドを全身で感じたいと思います！ Kiitos, moikka!(ありがとう、またね！)

「親子サロンほぐほぐ」

心地よい光と風の中でお子さんを囲んで
のんびり過ごせる居場所。

季節の歌や絵本も紹介しています。

対象 0～3歳児とその親

日時 毎月第3木曜日 | 3時～15時

問合せ oyako.hoguhogu@gmail.com

【運営：目白台親子サロン運営グループ】

文京区社会福祉協議会
ふれあいいきいきサロン登録事業

check instagram あります！



OYAKOHOGUHOGU



感性を育てるあそび

4月 どんこ代かき
5月 樽の田んぼで田植え
7月 稲の花が咲いたよ！

季節を感じて



畑はカラフル♪ 色水あそび

陽だまり 絵本



季節のおはなしタイム

土のかおり 土の感触



好奇心の先には
気づきがいっぱい



他にも。。。お話しと伴奏に合わせて歌おう♪
手あそびで楽しく親子スキンシップ！。。。などなど
出会いを結び、育む、親子の居場所。

ちんじゅの森 サポーター募集！

NPO法人ちんじゅの森の活動は会員の皆さまからの会費と寄付で運営しております。活動の趣旨に賛同して下さる方はぜひ会員になって、活動へのサポートをお願いいたします。会費は年間一口2,000円です。ご寄付に規定はございません。

【郵便振替】口座番号 00100-5-29217 特定非営利活動法人ちんじゅの森

【三菱UFJ銀行】恵比寿支店 普通 1318980 特定非営利活動法人ちんじゅの森

●はじめて会費や寄付にご協力くださる皆様へ

ちんじゅの森HP「ご支援のお願い」より、「会員申込フォーム」にてお手続きくださいますようお願いいたします。



会員申込フォームはこちらから
<https://www.chinju-no-mori.or.jp/shien>

TEL ▶ 03-6877-0425 (平日10:00~16:00) Mail ▶ hoguhogu@chinju-no-mori.or.jp

🏠 NPO ちんじゅの森 〒112-0015 東京都文京区目白台1-22-2 (ちんじゅの森サロンほぐほぐ)

*NPOちんじゅの森は現在、文京区目白台にある東京大神宮菜園のある場所を拠点にお借りし、年中行事や季節の手仕事、トークイベントなどを通して、日本の暮らしの中で大切にされてきたものを再確認し、それらを未来につなぐ活動をしています。